

予算の概要



令和8年度予算の規模

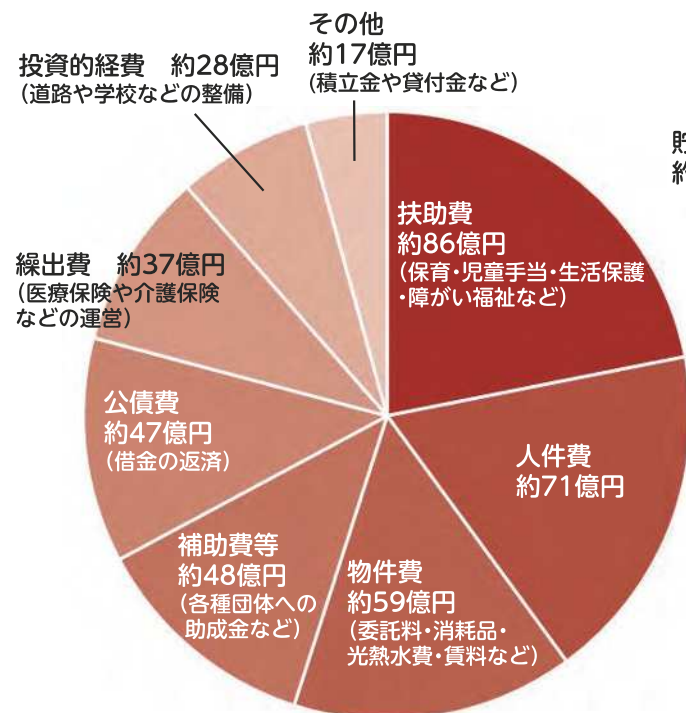
令和8年度当初予算は、一般会計が392億8,000万円、特別会計が193億6,000万円です。一般会計は令和7年度に、し尿処理施設の改修や小・中・特別支援学校のタブレット端末の更新が完了したため、前年度に比べて17億2,000万円(4.2%)の減少となります。

● 4～7ページで「令和8年度の主な事業」を紹介します。

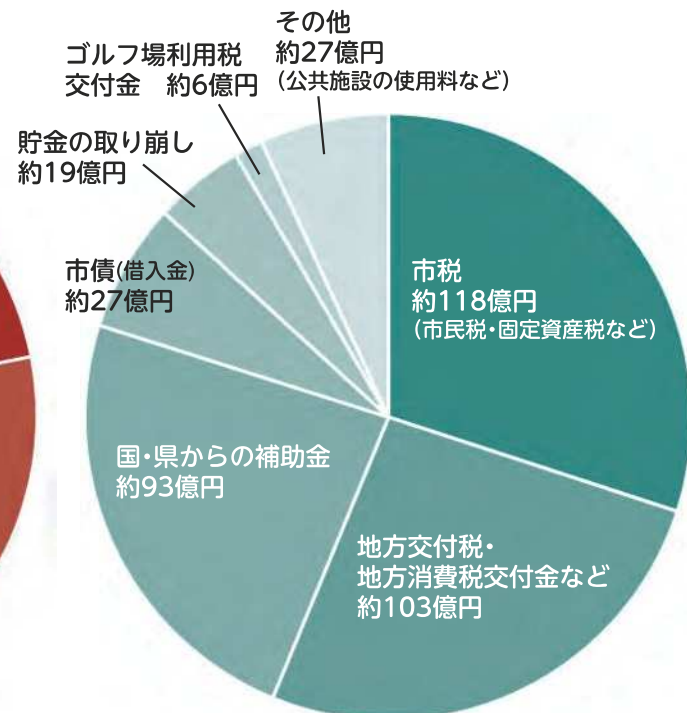
区分	令和8年度 当初予算 (A)	令和7年度 当初予算 (B)	対前年度比	
			増減額(C) (A-B)	増減率 (C/B)
一般会計	392億8,000万円	410億円	△17億2,000万円	△4.2%
特別会計	国民健康保険	83億8,800万円	3億2,500万円	4.0%
	介護保険	84億7,700万円	1億2,000万円	1.4%
	後期高齢者医療事業	21億4,000万円	3億2,100万円	17.6%
	学校給食事業	3億5,500万円	3億2,500万円	9.2%

予算の内訳(一般会計)

一般会計の歳出(約393億円)



一般会計の歳入(約393億円)



令和8年度 施政方針と予算の概要

誇りを持って暮らせるまち三木
～未来を拓く、確かな歩み～

固・(市)企画政策課・(市)財政課



▲施政方針の全文はこちら

施政方針

2月20日に第391回三木市議会定例会を開催し、仲田一彦市長が令和8年度施政方針を発表しました。その中から重要な取組などについて紹介します。

着実に進むまちづくり

人口減少を抑制する積極的な施策として、一旦進学や就職で三木を離れても、結婚や子どもの就学を機に、三木に帰ってきたいと思える環境整備、特に働く場の確保、教育環境の整備充実が重要です。また、人口減少や少子高齢化に対応した緩やかな縮小を図るため、公共施設再配置計画と財政健全化計画の着実な実行も不可欠です。

県市の連携事業である働く場の確保のための「ひよっこ情報公園都市」の整備をはじめ、吉川地域の施設一体型小中一貫校の設置、5月に供用開始予定の三木市多世代交流施設を核とした団地再生事業、(仮称)三木スマートインターチェンジ、中央公民館等複合施設、

次期ごみ処理施設の整備など、これまで進めてきた20年、30年先の将来を見据えたまちづくりを着実に前に進めます。

物価高騰対策

市民や事業者が直面している物価高騰は喫緊の課題です。4月から11月検針分までの水道基本料金の全額免除、プレミアム付きデジタルお買い物券の発行、小学校の学校給食費の無償化、中学校の学校給食費の半額支援など、きめ細やかな支援により市民生活を守ります。

地域資源の活用

本市は、NHKの大河ドラマ「豊臣兄弟」にゆかりのある「三木合戦」の舞台であり、全国から注目を集める絶好の機会です。歴史や大河ドラマのファンが「三木ファン」となっていただけのように、さらなる地域資源の活用や魅力の発信に取り組みます。伝統の技が光る「三木金物」、質・量ともに日本一の「酒米山田錦」、西日本一のゴルフ場数を誇る「ゴルフ」、国や県

の防災施設が立地する「防災」のまち、西日本で唯一馬術の国際大会が開催できる「三木ホースランドパーク」を有する「馬術」など、本市の魅力を最大限に活用し、まちづくりに生かします。

官民連携の推進

社会情勢の変化や市民ニーズの多様化などに対応するため、行政と民間事業者がそれぞれの強みを生かし、より質の高い市民サービスの提供、まちの魅力や住民満足度の向上につなげます。先ほど掲げた「ひよっこ情報公園都市」の整備、団地再生事業、中央公民館等複合施設の整備などにおいても、官民連携で推進します。

未来を拓く、確かな歩み

本年は、まちづくりの取組を着実に前に進め、まちの未来を切り拓くため、教育のまちの推進、市民が安全で安心して暮らせるまちづくり、地域の活力の向上、地域資源(三木ブランド)の魅力の向上、将来に向けた持続可能な行政運営の基盤づくりに取り組みます。

安全・安心なまちづくり

子育てしやすい環境づくりをはじめ、誰もが生涯にわたり安心して暮らせるまちづくりを進めます。

高齢者および障がい者の
バス等運賃助成制度の拡充

- ・バス等乗車券(2,000円相当)の交付に係る自己負担(500円)を廃止
- ・申請書を共通引換券に変更することで申請手続きを簡素化(ニコパカードへの引換・チャージは直接、神姫バス・神姫ゾーンバス営業所へ)
- ・タクシー券で「チョイソコみき」の利用が可能

【4,142万円】

水道の基本料金の全額免除

- ・市民生活の負担軽減を図るため、国の交付金を活用して、令和8年4月から11月検針分(8カ月間)の水道基本料金を全額免除

【2億9,515万円】



全てのこどもに
手厚い教育・保育環境を提供

- ・教育・保育の質の向上と職員の負担軽減を図るため、保育教諭などの増員を支援
- ・特別な配慮や見守りが必要な児童への対応を支援
- ・外国人世帯への対応を支援

【9,460万円】



市立共同作業所の新設による集約化

- ・三木共同作業所、口吉川共同作業所、あすなろ作業所の3施設を1カ所(口吉川共同作業所周辺)に集約
- ・令和10年度に供用開始予定

【2,900万円】



次期ごみ処理施設の整備を推進

- ・焼却とメタン発酵を組み合わせた高効率発電ができる「ハイブリッド方式」による施設の整備を推進
- ・事業者の選定および事業に必要な用地を購入

【2億534万円】



こども食堂の運営を支援

- ・物価高騰の中でも安心して活動を継続できるように、こどもの参加人数や開催回数に応じて補助金を加算
- ・運営の安定化や良質な食事の提供を支援

【95万円】



教育のまちの推進

「我が子の教育は三木市で受けさせたい」と思ってもらえる魅力ある学校づくりや教育環境の充実など教育のまちの推進に取り組みます。

小中一貫教育の推進

- ・吉川地域での「施設一体型小中一貫校」の設置に向け、開校準備委員会で協議の上、基本計画の策定を推進
- ・教員研修や児童生徒の積極的な交流など、小中一貫教育の取組を継続して推進

【1,953万円】

みきティブ(部活動の地域展開)の推進

- ・クラブ運営の支援拡充や指導者研修にWEB研修システムを導入
- ・令和8年度末までに50クラブ(運動系30、文科系20)の設立をめざす

【2,270万円】



不登校対策への継続的な取組

- ・サポートルーム対応の不登校対策指導員を市内全中学校、6小学校に配置
- ・フリースクールへ通う児童生徒への支援を行い、学びの機会を確保

【5,870万円】

タブレット端末を活用した教育の推進

- ・令和7年度にiPadへ更新したタブレット端末を活用し、児童生徒の主体的な学びを支援
- ・Wi-Fiアクセスポイントと校内LANを新規格のものに更新

【2億1,962万円
(3月補正)】



学校給食費の支援

- ・保護者の家計負担の軽減を図るため、国の交付金を活用して小学校は無償化
- ・市独自の支援で中学校は半額補助

【2億4,520万円】



学校体育館の空調設備を整備

- ・生徒の熱中症予防や災害時における避難所としての環境向上のため、中学校体育館に空調設備を整備
- ・今年度は、三木中学校をモデル校とし、整備工事を実施

【5,345万円(3月補正)】

生活困窮世帯のこどもの学習・生活を支援

- ・寺子屋みきの定員を拡大
- ・学習面に加え、調理実習などの体験を通じた学びも支援

【750万円】

地域資源(三木ブランド)の魅力向上

三木市のさまざまな優れた地域資源を活用し、地域の活性化を図ります。

全国削ろう会三木大会を支援

かんな
・鉋を使ってどれだけ薄く木を削れるかを競い合う全国大会を6月13日(土)・14日(日)に「鍛冶でっせ!」と同時開催
・開催地として実行委員会の取組を支援するとともに、全国大会の発信力を生かし、関係団体と連携して三木金物をはじめとする三木市の魅力を全国へPR

【200万円】



大河ドラマ「豊臣兄弟!」ゆかりの地のPR

・NHKの大河ドラマ「豊臣兄弟!」の放映に合わせて、三木合戦ゆかりの地を巡るクイズラリーや「みっきいハイキング」の実施
・春風亭昇太さん(落語家)と中井均さん(滋賀県立大学名誉教授)による三木城トークショーや三木合戦にまつわる企画展、講演会の開催

【575万円】

ゴルフを核にしたまちづくりの推進

・全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会、スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会を開催
・日本プロゴルフ協会などと連携したジュニア育成
・みきティブのゴルフクラブへの連携・協力
・関西国際大学ゴルフマネジメントコースへの連携・協力

【7,388万円】



「防災のまち三木」として 災害への対応力の強化

・被災者生活再建支援システムの導入(家屋被害認定調査や罹災証明書発行など応急期の対応に県下統一システムを導入)
・防災情報マップの更新
・災害用備蓄品のさらなる整備

【1,034万円(3月補正)】

持続可能なまちづくり

安定的で効率的な行政サービスを提供するとともに、予算を有効に活用し、持続可能な行政運営の実現に向けた取組を推進します。

中央公民館等複合施設の整備

・4つの公共施設と三木商工会館を集約化し、複合施設の整備を推進
・かわまちづくり計画を策定し、美囊川リバーサイドパークと一体利用することで、より一層の賑わいを創出

【32億円(令和7~11年度 債務負担)、かわまちづくり計画:218万円】

公共施設包括管理委託制度の導入

・学校や公民館ほか110施設の維持管理業務などを建物管理の専門事業者へまとめて委託
・老朽化が進む公共施設を適正に管理することで、安全・安心な施設を市民に提供

【23億3,000万円(令和8~13年度 債務負担)】

地域の活力向上

人が集い、誰もがいつまでも元気で暮らせるまちづくりを進め、まちの活力を向上させます。

プレミアム付き デジタルお買い物券の発行

・国の交付金を活用して、プレミアム付きデジタルお買い物券を発行
・プレミアム率30%
・40,000セット発行(1口5,000円)
【7,600万円(3月補正)】



ひょうご情報公園都市の整備を推進

・「ひょうご情報公園都市第2期」において公民連携(県・市・民間事業者)による新たな産業団地の整備を推進
・県企業庁とプロポーザルにより、開発事業者を1者選定予定
・開発区域に接続する市道の拡幅を検討

【1,020万円】



三木市地域おこし協力隊、 吉川地域での農村RMOの推進

農村地域の農業生産活動および集落維持機能が低下していることから、「三木市地域おこし協力隊」とともに、これらを下支えする組織「農村RMO」の立ち上げを支援

【1,560万円】



(仮称)三木スマートインターチェンジの 整備を推進

・(仮称)三木スマートインターチェンジと接続する市道の整備を引き続き推進
・令和8年度末の供用開始を目標

【3億5,315万円】



団地再生事業 青山7丁目団地再耕プロジェクトを推進

・全国の戸建て住宅団地が抱える「人口減少」「高齢化」「空き家」などの課題解決に向け、ライフステージに応じて住み替えながら暮らし続けることができる仕組みづくりや民間事業者と連携した持続可能なまちづくりの全国的な先行モデルとなる「団地再生事業」を推進

・5月には、「団地再生事業」の象徴的な施設である多世代交流施設「HITOTOKI MIKI(ひとときみき)」がオープン。総合相談窓口や、仕事や勉強ができる共有スペース、飲食店などを整備し、気軽に集える「まちのリビングルーム」として多様な世代の新たな交流機会を創出

【4,813万円】

